技術開発課題報告書（完了報告書）

課題	人工針葉樹林の成熟が土壌の有機物の動態に及ぼす影響	継続・新規別	継　続	担当	森林総合研究所 森林環境部 立地評価研究室 森林技術センター	開発箇所	水戸営林署 笠間事業区 238林班　な小班 202林班　ね小班	開発期間	平成７年～平成９年
		指示・自主別	自　主 （営林局）						

年度別実施経過（開発経過と調査内容）	９年度実施報告（成果）	評価（評価及び普及指導）	今後の研究予定（経過観察等）
平成７年度 ○固定試験地の設定（ 238林班） 28年生ヒノキ林の斜面に60m× 200mの固定試験区を設定し，斜面の上・中・下部に固定観察プロットを設置。 各プロットにリタートラップ，リターバッグ，地温計を設置し，測定開始。 各プロットで，土壌断面調査，土壌深調査をおこない，分析用試料を採取。 ○比較対照地の調査 上記28年生の林以外に，８年生と42年生のヒノキ林，202林班の85年生ヒノキ林，およびほぼ同齢と思われる落葉広葉樹林で推積有機物量，土壌硬度，Ａ層厚を測定するとともに，分析試料を採取し，全炭素，全窒素，ｐＨを測定。 平成８年度 ○固定試験地でのリターフォール量，リター分解量，地温測定を継続。 ○ 202林班85年生ヒノキ林で，リターフォール量測定開始。 ○土壌試料の分析	１．固定試験地でのリターフォール量，リター分解量，地温測定の継続。 ２．202林班ヒノキ林でのリターフォール量測定継続。 ３．分析結果のとりまとめ	研究成果の取りまとめは，農林水山技術会議特別研究「人工針葉樹林における土壌劣化機構の解明」で行われているので，関係資料を参照されたい。	とくになし。